

大阪教育大学連合教職大学院における フラッグシップ特例の活用状況及び効果について

令和8年6月16日 中央教育審議会初等中等教育分科会教員養成部会発表資料

大阪教育大学 理事・副学長 峯 明秀

教職大学院におけるフラッグシップ特例の活用状況

※研究科共通科目のみ抜粋

令和5年度					
履修方法：必修16単位、選択必修4単位					
科目区分	開講年次	授業科目の名称	単位数	必修・選択の別	
共通5領域科目	I	教育課程編成の今日的課題	2	必修	
	I	カリキュラム・マネジメントの理論と実践	2	必修	
	I	学習指導の実践的展開	2	必修	
	I	生徒指導と教育相談の実践的課題	2	必修	
	I	学校経営と学級経営の理論と実践	2	必修	
研究科共通科目	II	教師力・学校力・スクールコンプライアンス	2	必修	
	⑤	I 教育研究方法演習 →特例領域科目へ	2	必修	
	⑤	II 学校安全と危機管理	2	必修	
	③	II 人権教育の課題と実践	2	選択	
	③	I 子どもの貧困及び児童虐待の理解と教育実践	2	選択必修	
	③	II 社会的包摂に関する実践的探求	2	選択必修	
	③	I インクルーシブ教育の理論と実践	2	選択必修	
	現代的教育科目	I	外国にルーツのある子どもの教育 I	2	選択
		I	外国にルーツのある子どもの教育 II	2	選択必修
		II	外国にルーツのある子どもの教育 III	2	選択
		I	インクルーシブ教育の実現に向けた子どものアセスメントと支援	2	選択
		II	通常学級におけるインクルーシブ教育の実践	2	選択
		一部を共通5領域科目として取り扱う			

令和6年度					
履修方法：必修16単位、選択必修4単位					
科目区分	開講年次	授業科目の名称	単位数	必修・選択の別	
共通5領域科目	I	カリキュラムの編成原理とマネジメント	2	必修	
	I	学習指導の実践的展開	2	必修	
	I	生徒指導と教育相談の実践的課題	2	必修	
	I	学校経営と学級経営の理論と実践	2	必修	
	II	学校安全と人権を核にした教師力・学校力の創造	2	必修	
研究科共通科目	I	教育におけるDXとSTEAMの理論と実践	2	必修	
	I	グローバルスタディーズの展開	2	必修	
	II	多職種協働による組織マネジメント	2	必修	
	I	子どもの貧困及び児童虐待の理解と教育実践	2	選択必修	
	II	社会的包摂に関する実践的探求	2	選択必修	
	I	インクルーシブ教育の理論と実践	2	選択必修	
	I	外国にルーツのある子どもの教育 I	2	選択	
	I	外国にルーツのある子どもの教育 II	2	選択必修	
	II	外国にルーツのある子どもの教育 III	2	選択	
	I	インクルーシブ教育の実現に向けた子どものアセスメントと支援	2	選択	
	II	通常学級におけるインクルーシブ教育の実践	2	選択	
	現代的教育科目	II	学校安全と危機管理	2	選択
		II	人権教育の課題と実践	2	選択
I・II		臨床的研究法入門 I	1	選択	
I・II		臨床的研究法入門 II	1	選択	

統合

16単位

学校安全、人権の要素を追加

新設

現代的教育科目を特例領域科目へ

フラッグシップ大学特例領域科目

10単位

共通5領域から単位数を減じるにあたっての工夫

①複数科目で取り扱っていた内容を1つの科目に統合

- 学部教育や大学院の他科目との重複内容を整理
- 基礎的な内容を圧縮し、より実践的な内容に時間を割く構成へ

②選択科目へ変更するとともに、重要な要素について必修科目内で取り扱うことで学びの機会を維持

- 「学校安全と危機管理」を選択科目へ変更
- 「教師力・学校力・スクールコンプライアンス」に学校安全と人権教育の要素を加え「学校安全と人権を核にした教師力・学校力の創造」に再編
- 学校安全に関する講義を加えるとともに、授業内で院生が取り組む課題のテーマとして取り扱う

特例活用にあたり、大学として感じられる効果/取り組むにあたっての課題

カリキュラム再編による効果

①授業内容の焦点化

- ・ 複数の科目を統合する過程で、教員間で議論を重ねた結果、授業の要点がより明確になった。
- ・ 院生にとって「何を学ぶのか」が分かりやすくなり、「あの時の授業で先生がこう言っていた」と関連付けて話す場面が見られるなど、学びの定着のしやすさにも繋がっている。

②教員の役割分担と多角的視点の提供

- ・ 1科目を複数教員で担当することで、それぞれの専門性を活かした多角的な視点を院生に提供できるようになった。
- ・ 教員間の連携が取りやすくなり、授業の展開を共同で作りに上げることが可能となった。

③学びの高度化

- ・ 新たに導入した4領域においては、従来から「現代的教育科目」として開講してきた先導的科目をフラッグシップ指定科目として再編するとともに、学部教育におけるフラッグシップ指定科目等との接続を考慮した構成とした。
- ・ 特に「多職種協働による組織マネジメント」は修士課程との相互履修科目として開講し、所属の違いに加え、スタマス/現職など多様な構成によるグループディスカッションを主体として実施した。授業後の振り返りにおいては、自身の視野の広がりや多職種協働に対する気づきについてのコメントが見られた。

【参考】「多職種協働と組織マネジメント」における受講生の振り返りコメント



専門分野が違うことで、課題意識に差が生まれることを前提に考えるようになってきました。それは、この授業で何度もグループワークをして、見え方が違うんだなと思ったからです。経験が違うから、知っている・知らない・分からないことがわかるなど、どれだけ自分から話せるか。相手が話すことができているか。また、**自分の経験則が最善ではない**。話すことで、**視野が広がっていく**という感覚でしょうか。（教職大学院院生）

取り組むにあたっての課題

教育学研究科（修士課程）との連携

- ・ 上記「多職種協働による組織マネジメント」は、相互履修による院生の学び合いに加え、授業実施における教員の協働という点でも新たな試みであったが、授業担当教員からは所属を越えた教員間の連携に難しさを感じる声が多くあった。
- ・ 所属の違いにより、日頃から教員間で共有している前提が大きく異なることが浮き彫りとなり、連携体制の在り方には課題が残った。授業実施にあたっての趣旨目的や実施方法のすり合わせなど、事前に教員間で丁寧な打合せを行うことの重要性が改めて感じられた。

他大学においても導入すべき要素・考え方/導入にあたっての課題点や難しさ、解決方策など

他大学においても導入すべき要素・考え方

①養成する人材像の明確化

- ・ 教職大学院において養成する人材の出口として全国を想定するか、特定の都道府県の教員養成に特化するのかによって、カリキュラムの方向性は大きく異なる。
- ・ カリキュラム編成にあたっては、自大学院の特徴（連合か単独か等）と育成したい人材像を明確にすることが不可欠である。
- ・ 本学は全国でも特に多様な教育課題を有する大阪府内への人材輩出に注力するとともに、大学間連携による全国展開を想定し、カリキュラム編成においても多様な院生のニーズに応えていく方針である。

②取組を推進するための組織体制の構築

- ・ 先導的な取組を推進するにあたって、組織横断的かつ機動的な対応ができる組織体制の構築が必要である。
- ・ 本学においてはフラッグシップ大学構想にあたり「未来教育共創推進統括本部」を新設し、その下のユニットにおいて新たな授業科目の開発やその他の取組を推進する体制を取った。
- ・ 若手教員をはじめ、所属の異なる多くの教員が参画することで、取組に対する教員間の理解が進んだ。

導入にあたっての課題点や難しさ、解決方策など

教員間の合意形成

科目を統合・再編するにあたり、担当教員間での度重なる話し合いと膨大な議論が必要となり、相応の労力とコストがかかった。

<解決方策>

前述の組織体制の整備による教員間の意識改革のほか、教職大学院教員による定例ミーティングやFDの開催など、情報共有・意見交換を行う場を継続して確保した。

■ 定例ミーティング

- ・ 月1回開催（現在も継続中）。専任教員146名のうち常時100名以上が参加
- ・ 情報伝達の時間は最小限とし、意見交換の時間をメインに実施

■ FDの開催

- ・ 連合教職実践研究科FDとして、フラッグシップ指定科目の学部・大学院の接続や省察の在り方、指導教員の実習対応等をテーマに定期的に開催
- ・ 令和7年度開催実績：6回（令和5年度と比較して1.5倍）

